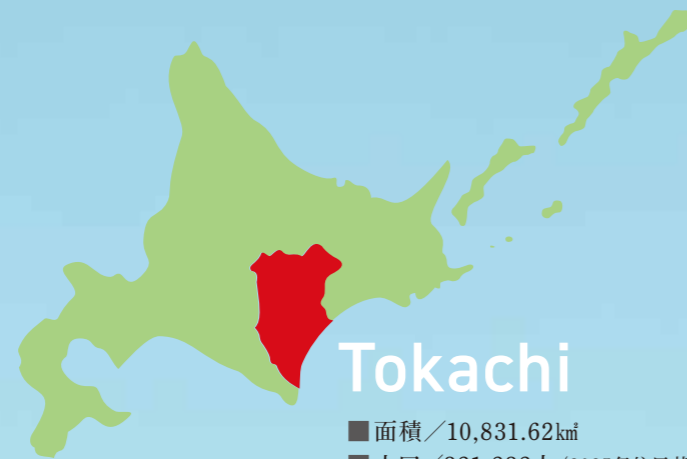


いつも地域とともに。



## Tokachi

- 面積 / 10,831.62km<sup>2</sup>
- 人口 / 321,232人 (2025年住民基本台帳)
- 世帯 / 171,492世帯 (2025年住民基本台帳)



*We Love Tokachi*



株式会社 十勝毎日新聞社

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2番地  
TEL 0155-22-2121(代表) FAX 0155-25-2700  
www.tokachi.co.jp

勝毎電子版 [kachimai.jp](http://kachimai.jp)

2026年1月

# 十勝毎日新聞社

TOKACHI MAINICHI NEWSPAPER, INC

# KACHIMAI

# いつも地域とともに。

十勝毎日新聞社は1919年に北海道帯広町(現在の帯広市)で創刊。メディアと観光を基軸に事業を展開し、地域の活力向上に取り組んできました。

「かちまい」の愛称で親しまれ、「豊富な地域・生活情報」と「顔の見える新聞」が特徴です。記事をきっかけに交流が生まれ、十勝をより豊かな地域にする。これが私たちの目指す地域密着報道です。

また、ホテルや菓子店、ガーデンの運営、イベントを通じて、観光面から十勝ブランドの発信に貢献しています。

いつも地域とともに。

豊かで力強い十勝の支えとなれるよう、これからも果敢に挑戦を続けていきます。

## 十勝毎日新聞社グループ

### メディアグループ

十勝毎日新聞社  
帯広シティーケーブル(OCTV)  
エフエムおびひろ(JAGA)  
かちまいサービス  
かちまい印刷

### 観光グループ

北海道ホテル  
十勝川温泉 第一ホテル/豊洲亭・豆陽亭  
十勝川温泉 三余庵  
十勝千年の森  
キサラファーム  
十勝トテッポ工房

Tokachi

## 北海道・十勝とは

十勝平野は北海道の南東部に位置し、3つの国立公園(日高山脈襟裳十勝、大雪山、阿寒摩周)と太平洋に囲まれています。名前の由来は地域の中央を流れる十勝川をさすアイヌ語「トカプチ」。北海道唯一の民間による開拓の地です。

面積は北海道内の14総合振興局では最も広く、都道府県では全国7番目の広さの岐阜県と同じくらいです。太平洋岸を除き、昼夜の寒暖差の大きい内陸性気候で日照時間が長く、夏は35度、冬には氷点下20度を下回ります。

基幹産業の農業は、酪農・畜産、畑作を合わせた生産額(JA取扱高ほか)が4,200億円に達します。農業生産の底堅さが関連産業の成長につながっています。日本の食糧基地として全国の食卓を支えるとともに、豊かな食と自然が観光資源となっています。



- 面積 / 10,831.62km<sup>2</sup>
- 人口 / 321,232人(2025年住民基本台帳)
- 行政区 / 北海道十勝総合振興局
- 世帯数 / 171,492(2025年住民基本台帳)
- 市町村 / 1市16町2村

## 創業者・林豊洲の想い～地域を明るくするために

「新聞社が観光も」と聞くと意外に思うかもしれませんが、その背景には、創業者・林豊洲(1889—1935)の先進的な考えがありました。

別府温泉など温泉地として有名な大分県出身の豊洲は、メディアの発信力を観光振興に結び付けることが、地域の魅力発信や経済活性化につながるという確信を持っていました。「地域を明るくしたい」という強い思いで、花火大会などのイベントを開催し、十勝川温泉や然別湖周辺の観光開発に自ら先頭に立ち取り組みました。その行動力は、狩勝峠の新日本八景選定や大雪山国立公園の十勝エリア編入につながり、全国に十勝を発信するきっかけとなりました。

メディアと観光は、どちらも見聞きし、体感し、時には味わうことで初めて価値が伝わります。その価値に気づいた創業者の思いを私たちは大切にしています。



大雪山国立公園の十勝エリアの編入に尽力した林豊洲(右から3人目)



## 豊かな十勝の実現へ 「メディア」と「観光」二本の柱で

激動する世界情勢や気候変動は、私たちの日々の暮らしに大きな影響を及ぼしています。北海道・十勝でも記録的な大雪や猛暑など温暖化の影響を強く感じられるようになり、昨今のインフレと合わせ、基幹産業の農業と地域経済に影を落としています。こうした時代の中で、私たち十勝毎日新聞社グループは、読者の期待に応えるべく、総力取材で地域の現状と課題を発信し続けています。

十勝では、大樹町を拠点とした宇宙ビジネスが新たな局面を迎え、国内外から注目を集めています。2027年には、「和牛のオリンピック」と呼ばれる全国和牛能力共進会が開かれます。農業分野のさらなる成長を牽引する大型イベントとして期待が高まります。インバウンド増加による観光活性化とともに、新たな動向を多角的な視点から掘り下げ、しっかりと伝えていきます。

私たちは「顔の見える新聞」と「読者本位制」を編集方針とし、地域に根ざした「ハイパーローカルな新聞づくり」を徹底しています。「勝毎電子版」では災害速報やインタビューなどの動画に加え、生活に役立つ独自コンテンツも充実。生成AIなど最新技術も活用し、ニュースの質と量を追求してまいります。新聞・電子版に加え、帯広シティーケーブル（OCTV）、エフエムおびひろ（JAGA）、フリーマガジンChaiなど複数の媒体を擁する、世界でも類を見ない「融合メディアグループ」として進化を続けています。

観光グループは創業120年余りの歴史を刻む北海道ホテル、創業60年余りの十勝川温泉第一ホテルが、希少なモール温泉やフィンランド式サウナ、農業王国・十勝の豊かな食材を活かしたおもてなしで、訪れる皆さまに感動と癒しを提供しています。

これからも「郷土の発展とともに」の社是の下、メディアと観光の“二本柱”を基軸に、グループの総力を挙げて、豊かで力強い十勝地域の実現へ全力で貢献してまいります。

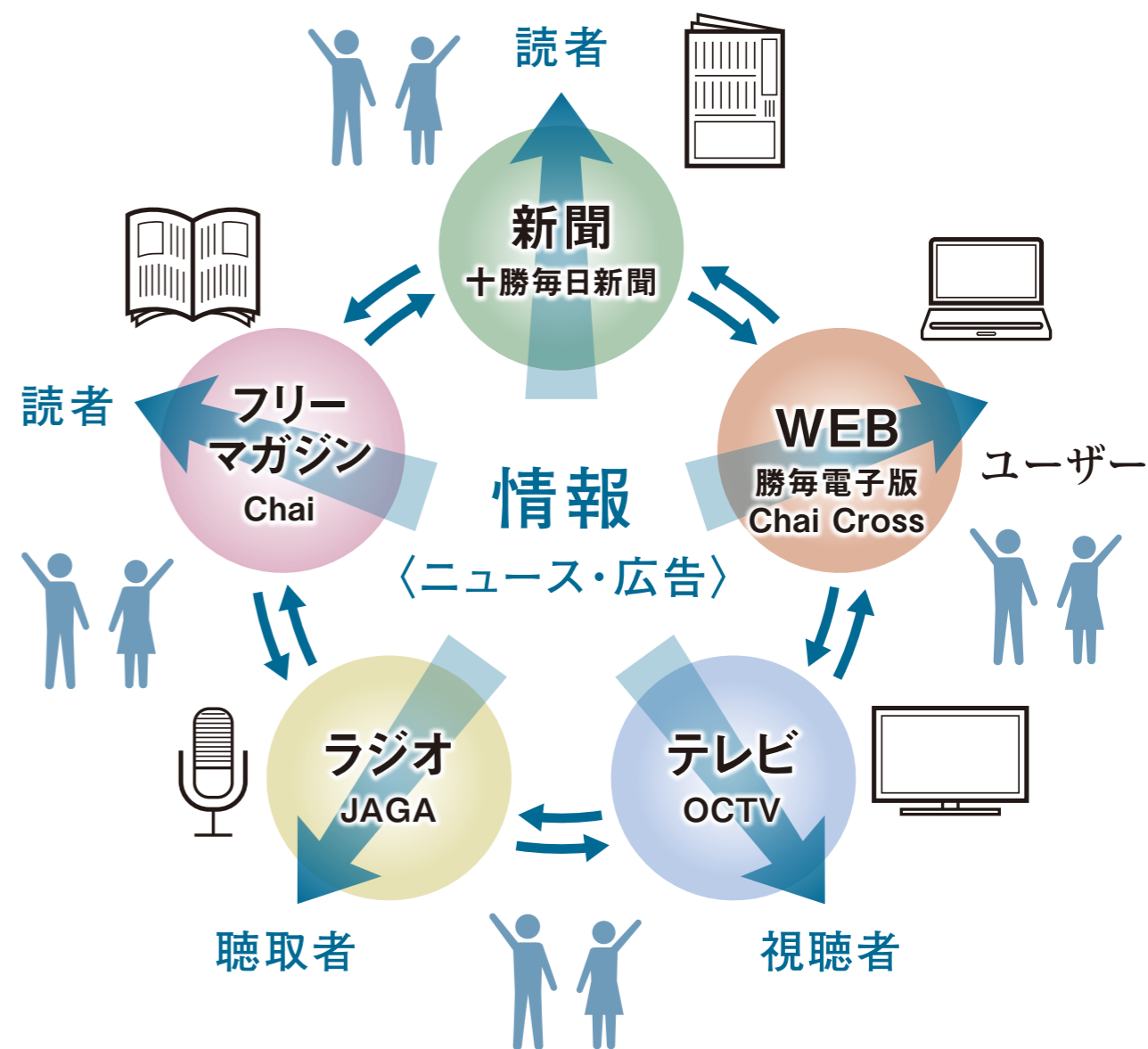
株式会社十勝毎日新聞社 代表取締役社長 林 浩史

## 統合編集本部で統一テーマ

十勝毎日新聞社は約30年前から、「メディアミックス」を意識した情報発信を行ってきました。新聞を核とし、自社ビル内にあるケーブルテレビやコミュニティ FMラジオといった異なるメディアが報道や広告などで随時連動、フリーペーパーやHP、電子版などのツールを使い、多彩な情報をキメ細かく発信しています。

デジタル社会が到来し、多様化する大量の情報を分析、体系化して分かりやすく伝えるため、2024年には「統合編集本部」を本社内に設置しました。これまで各メディアでそれぞれ行っていた連携は、各担当者が定期的集まることで、日々のニュースや各プロジェクト、イベントなどの情報を組織的に共有。統一したテーマに対し、各媒体の特性を生かした情報発信に取り組んでいます。

## 媒体特性を最大限に



### 十勝毎日新聞社メディアグループの媒体

#### ■ 十勝毎日新聞

発行部数：65,077部、十勝管内普及率：37.94% ※2025年10月ABC協会報告部数  
 帯広市内占有率：72.00%、十勝管内占有率：70.08%  
 ※十勝毎日新聞の発行部数を、帯広市内および十勝管内5紙の発行部数で割った場合

#### ■ 十勝毎日新聞電子版

有料契約件数：11,632件 ※2025年9月 月間最高PV数：11,211,340PV ※2025年7月

#### ■ フリーマガジンChai

133,500部発行 ※帯広市内、音更・芽室・幕別各町の市街に全戸配布。そのほか町村は十勝毎日新聞購読世帯に配布 ※2025年10月

#### ■ 帯広シティーケーブル(OCTV)

加入総世帯数：16,139世帯 テレビ：11,469世帯 ネット：11,424世帯  
 固定電話：7,642世帯 スマホ：1,549件 ※2025年10月

#### ■ エフエムおびひろ(JAGA)

放送エリア：帯広圏(帯広市、音更町、幕別町、芽室町)と池田町、清水町、中札内村の一部をカバー  
 放送エリア内の人口：約24万人(十勝の人口の約75%)

# 地域の顔を 見える新聞作り



## 十勝の コミュニケーションの真ん中に

### 十勝の隅々まで、 ローカル情報を網羅

十勝毎日新聞の紙面には毎日、多くの人が載っています。創刊以来、変わることのない編集方針は“顔の見える新聞づくり”。身近な人が取り上げられることで、十勝のコミュニケーションのきっかけになることを目指しています。

たくさんのお情報を届けるため、総勢50人の記者が十勝19市町村を奔走しています。政治・経済、事件・事故、文化・スポーツから町内会のお話まで。きめ細やかな情報発信で、地域をつないでいます。

取材先や読者との  
距離が近い、  
地方メディアならではの  
やりがいを感じています

編集局報道センター  
児玉未知佳さん



MOVIE



様々な分野で活用が進むAIについて、  
地域・現場の視点から報じていきます  
(26年1月3日付十勝毎日新聞)

### 年間キャンペーンで 地域を先導

まちづくりへの提言報道も定評があります。1976年の「交通事故をなくそう」以来、長年にわたり、テーマを決めて通年で集中報道を行う「年間キャンペーン」を展開。これまで観光、少子高齢化、福祉、宇宙など多岐の分野に及び、記者が国内外の取材を通じて現状と課題、解決策を多角的に掘り下げてきました。2026年は「AI(人工知能)の輪郭」と題し、急速に進化し、日常生活や産業に浸透してきたAIが、私たちの暮らしに何をもたらすのかを追究します。

### 過去のキャンペーン

- 2022年「孤のとなりに」
- 2023年「十勝で暮らす～選ばれるまちに」
- 2024年「十勝の輪・和」
- 2025年「SX1.0～宇宙新時代」
- 2026年「AI(人工知能)の輪郭」

取材の基本は地域に出て話を聞くこと。身近な話題から大きな課題の解決につながることもあります

# 基幹産業の農業 発展を支えて

朝早くから畑仕事や搾乳に向かう農家の生活に合わせ、  
十勝毎日新聞は夕刊紙。開拓期から地域の根幹を支えてきた農業を最重要  
産業と位置付け、さらなる成長を後押ししています。

## 圧倒的な情報量

勝毎の農業報道の象徴ともなっている「農業ガイド」(毎週土曜日掲載)は、季節に応じた営農情報や、IT、GPSを活用した最新技術など、通常紙面よりも専門的な情報を載せています。電子版の「勝毎アグリカルチャー」では、農業の話題を集約。圧倒的な情報量に加え、十勝農業の営みがわかる動画も多数掲載することで、農業者以外にもわかりやすく紹介しています。



## 歴史や成果を集約

十勝農業の歴史を網羅した「十勝農業史」(上・下巻 666ページ)を2023年に刊行。民間による開墾から「農業王国」と呼ばれるまでに発展した軌跡を収録しています。「農業新技術」は十勝に拠点を置く、農業系研究機関の毎年の成果を収録した冊子です。1993年から、全農家への無料配布を続けています。



**十勝の農業** バレイショや小麦などの畑作4品や酪農畜産を中心に、大規模で機械化された、生産性の高い農業を展開しています。1経営体あたりの耕地面積は45.7haと都道府県平均の約21倍。2024年の農畜産物取扱高は4,040億円以上です。経営規模拡大による労働力不足解消に向けた農業機械の自動化や、食の安全・安心に対応するための適切な施肥、農業散布のためのドローン活用など、スマート農業の推進にも力を入れています。



最終面を使った「かちスポ」(右)と中面のスポーツ面。  
一瞬の輝きを記憶と記録に残していきます

# きらめく瞬間 ダイナミックな紙面で

## アスリートの成長を応援

創刊以来、地元スポーツの振興・発展にも力を注いできました。地域の大会はもちろん、全国、国際大会にも記者を派遣。子どもたちがアスリートへと成長し、活躍する姿を報道しています。2025年からは、これまで、本紙中面で展開していたスポーツ面に加え、最終面を大胆に活用した「かちスポ」を展開。地元選手の躍動ぶりやライバルに向き合う思い、決定的な瞬間を捉えた写真など、読者がその場にいるような臨場感を目指した紙面づくりを進めています。



勝毎電子版では新聞紙面に入りきれない、数多くの写真を掲載。記者やカメラマンが撮影した写真を通してスポーツの魅力伝えていきます

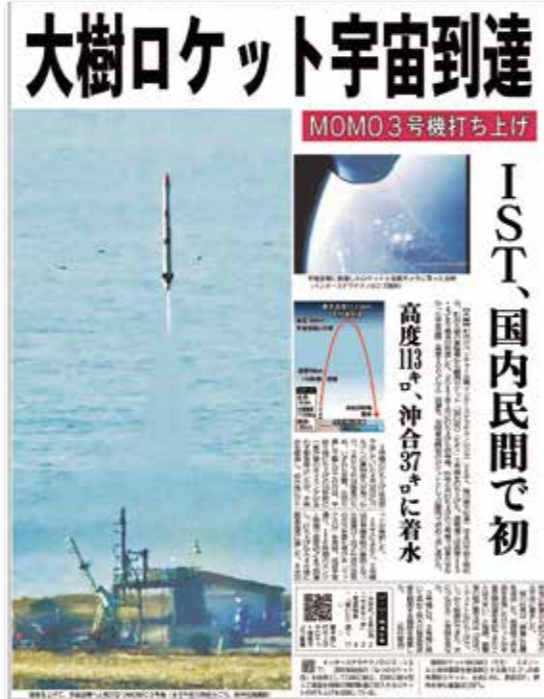
## スポーツが盛んな十勝

人口約32万人の十勝地方ですが、五輪金メダリストを輩出したスピードスケートを筆頭に、野球やバスケットボールなど数多くの競技でトップ選手が育っています。地方都市ながら様々なスポーツに挑戦できる運動施設や競技団体、地域で子供たちを応援し育てる体制などが、成長を後押ししています。

# 十勝から宇宙へ

## 宇宙報道40年。夢の実現を後押し

1985年に北海道・大樹町が宇宙基地誘致をスタート。十勝毎日新聞は1面トップで「大樹町に宇宙基地を」の特ダネを掲載しました。以来、NASA(米航空宇宙局)のリポートやフォーラム開催を通じて基地誘致を支援しています。大樹町には近年、国内民間ロケット開発事業者が進出し、宇宙空間に到達するロケットの打ち上げや、射場の建設が進められています。商業宇宙港の夢が一步ずつ形に。国内外から注目を集めています。



左：1985年9月16日付1面で大きく報じられた大樹町での宇宙基地誘致構想  
 上：2019年5月4日付1面では、大樹町内のベンチャー企業による国内民間企業初のロケット宇宙到達を伝えました



## 大樹航空宇宙基地構想

十勝の南東部、太平洋に面した大樹町は、ロケットの打ち上げ適地として1985年に「航空宇宙産業基地」の候補地とされて以降、官民一体となって「宇宙のまちづくり」を進めてきました。町美成地区の「北海道スペースポート(HOSPO)」では、JAXA(宇宙航空研究開発機構)をはじめ、民間企業や大学等による様々な実験が行われています。



2026年9月完成予定、ロケット打ち上げ射場「LC1」の完成イメージ

## 北海道宇宙サミット 開催、運営に参画

日本最大級の宇宙ビジネスカンファレンス「北海道宇宙サミット」が2021年以来毎年、帯広市内で開催されています。年々規模は大きくなっており、ロケット開発や衛星開発など宇宙に関連する幅広い業種の企業・団体が参加しています。十勝毎日新聞社は毎回、運営に参画し、メディアグループを挙げて情報発信に力を入れています。



上：海外のロケット打ち上げ射場関係者も登壇した25年の宇宙サミット  
 左：宇宙人材の育成に向け、地元の高校生も参加した



## 特集と特設ページで 話題を世界に

大樹町の「宇宙のまちづくり」を応援するため、電子版に特設ページ(上写真)を開設しています。最新の情報を集めた特集記事や関係者へのインタビューなども交え、情報を発信。打ち上げの際には、ライブ映像も配信しました。



## 日本の宇宙開発の今 ～官から民へ～

日本の宇宙開発は長年、国主導によるロケット打ち上げや衛星の開発が行われてきました。現在はベンチャー企業を中心として民間企業による宇宙開発が加速し、需要を喚起しています。大樹町は垂直型と呼ばれるロケット打ち上げだけでなく、宇宙往還機が滑走路に着陸する水平型も可能な恵まれた立地条件です。地元の官民一体となった協力体制もあり、国内宇宙開発のホットスポットの一つとなっています。

# 暮らしに寄り添う情報

# もっと楽しく、深く

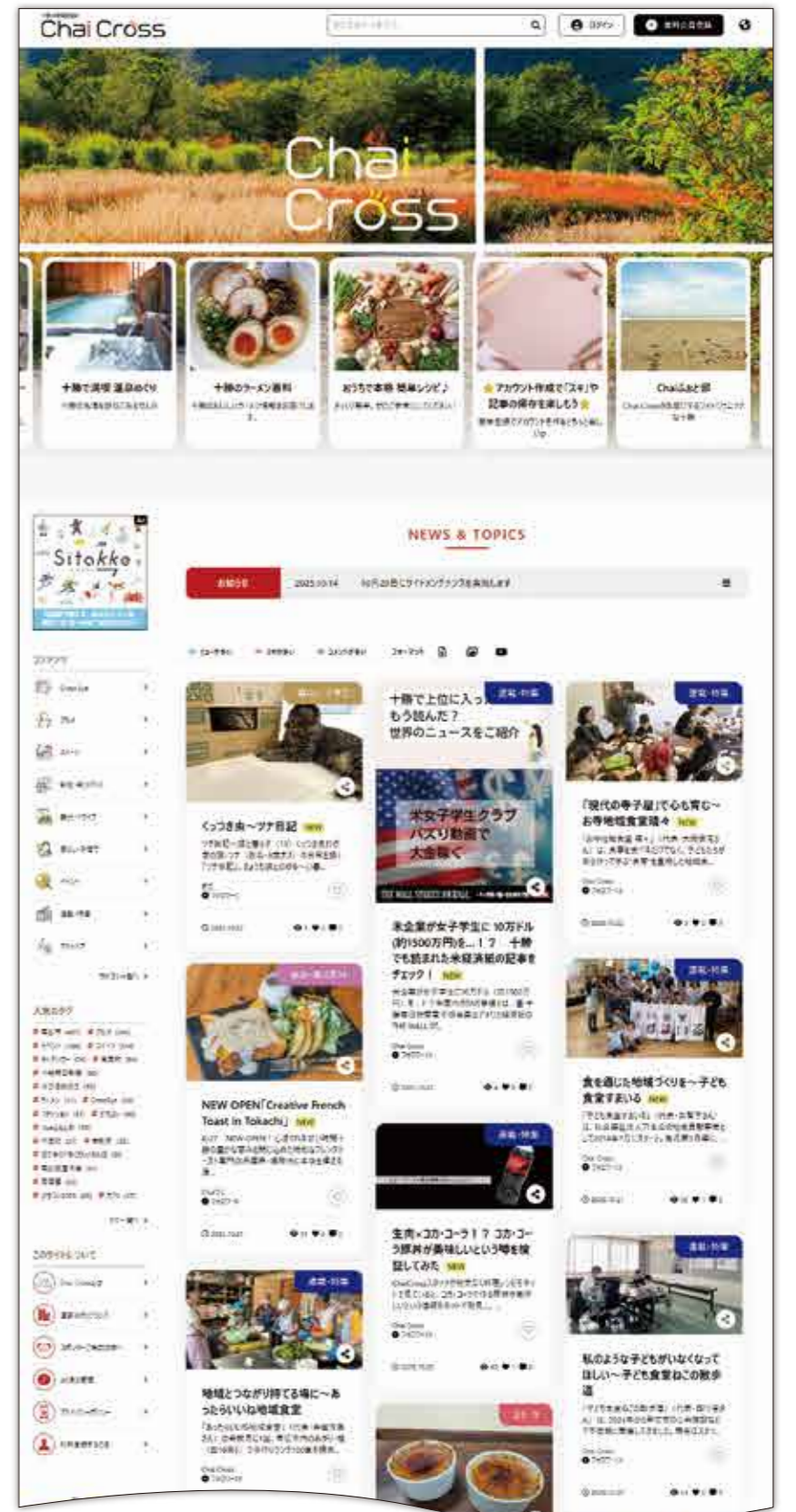


創刊は1998年。タブロイド判から始まり、形を変えながら地域で愛され続けています



## 十勝のリアルな話題 専用サイトで

十勝の魅力を伝える新たなメディアとして2023年に開設しました。イベントや新店の紹介、キッチンカーの出店情報、桜・紅葉のスポットといった身近な話題を掲載しています。一方、地域課題やトレンドを記者の視点で分かりやすくレポートした特集も。“等身大”の十勝を知ることができます。



地域の人々が参加した投稿や企業とのコラボ記事もあり、サイトを盛り上げています

## 十勝No.1の発行部数、毎月約160ページ

「Chai(ちあい)」は十勝No.1の発行部数(13万3,500部)を誇る月刊フリーマガジンです。平均160ページのボリュームで、十勝のグルメや観光、新店など暮らしに役立つ情報を掲載しています。勝毎電子版のコンテンツ「Chaiでじ」では、冊子のダウンロードはもちろん、過去の連載や特集も一挙に確認できます。

## 酪農王国十勝をPR ソフトクリームラリー

十勝のソフトクリームを食べ歩くイベント「ソフトクリームラリー」を毎年開催しています。21回目の2025年は過去最多の100店が参加し、3カ月間で1万人以上を動員。酪農王国の魅力伝えるキラコンテンツです。



100店すべてを制覇した参加者は51人(25年)



巻頭特集のほか、まちの名店や人にスポットを当てた連載、新店情報も人気です



# デジタルの力で 地域の問題を国内、世界へ

十勝毎日新聞は日本の新聞社の中で先駆けて、情報のデジタル化をスタートさせました。地域はもちろん、国内・世界に向けて十勝の話題を発信し続けています。

十勝毎日新聞 電子版

Tokachi Mainichi News Web



## 有料会員1万人以上

情報をより早く、深く地域に届けると共に、十勝の話題を国内外に広く伝えて地域を活性化したい。電子版はそんな願いを込めて2010年に開設しました。毎日のニュースや災害時の速報はもちろん、ビジネスや農業、宇宙など地域産業も詳細に取材。オリジナルのコンテンツも次々と生み出しています。登録者数は1万1,000人を超えました。

## 自社開発が強み

電子版は、社内のデジタル業務を一挙に担う編集局デジタルセンターが運営。システムやコンテンツ開発を通じて、日々の進化を支えています。

## 十勝の「今」をリアルタイムに。 オリジナルコンテンツ

調査・解説記事のほか、読者の投稿をもとにした双方向企画など、独自の記事を多数配信。お悔やみ速報や、1989年以降の記事検索ができる機能も合わせ、十勝の「今」を届けています。

### 電子版ジャーナル 深掘り記事や特集掲載



掘り下げた解説記事やレポートのほか、インタビュー、ドローン映像といった動画による連載も。

### 防災情報 もしにも備える



防災情報をまとめたページ。電子版アプリでは、防災速報をプッシュ通知で配信しています。

### ぽっかぽかTimes 軽快なトークで 十勝を解説



十勝の出来事をピックアップして伝える動画番組です。担当記者らの“脱線トーク”も交えながら、ニュースを分かりやすく紹介。

### 電子版からAI活用まで 広がるデジタル改革

電子版の運用をはじめ、社内のデジタルツールの企画・運営、自社のAI開発など、幅広い場面でデジタル化に対応。データを分析し、より効果的な意思決定や改善を行う組織づくりを進めています。記者やエンジニア、Webマーケターといった専門職が活躍しています。

作業効率化を目指し、生成AIのアプリケーションを開発しました

WebやSNSなどのデータから販促戦略を提案しています



編集局 デジタルセンター  
エンジニア 平間 絢也



編集局 デジタルセンター  
マーケター 梶野 有李

MOVIE



# イベントで活力ある 十勝を

地域の活力を高め、十勝の魅力を全国に一。  
観光や文化、食、農業関連など幅広い分野の事業を展開しています。



①会場は帯広市と音更町を結ぶ「十勝大橋」の東側 ②エフエムおびひろ (JAGA) のDJによる軽快なトークも醍醐味 ③笑顔と歓声があふれる会場。大会当日は帯広市内の繁華街や宿泊施設が1年で最もにぎわいます

# 勝毎花火大会

## 約100年前から開催 全国屈指の花火ショーに

夜空を幻想的に彩る十勝の夏の風物詩「勝毎花火大会」は1929(昭和4)年、十勝の産業振興をねらいに、初代社長・林豊洲が創刊10周年の事業として始めました。「北海道で最初の花火大会を帯広で開催し、地域に明るさをもたらしたい」と商工業者に呼び掛けて実現。約100年のときを経てその思いは今も受け継がれ、道内最大規模を誇るイベントに成長しました。毎年、開催日の8月13日には全国から多くの人が訪れます。



MOVIE  
◀ 過去の大会をCheck!



第1回の花火大会の盛況ぶりを伝える記事(1929年8月18日)

## 音と光 進化し続ける演出

花火大会は十勝川河川敷を舞台に、音楽や照明、映像などを交えた迫力あるエンターテインメントショーです。デジタル制御によって打ち上げを秒単位で調整し、司会者による観客一体型の演出で会場を盛り上げます。4Kワイド映像の生中継や、ドローン映像を使った動画配信にも取り組んでいるほか、当日は勝毎电子版やOCTV、JAGAでもリアルタイムで放送・配信。全メディアが総力を挙げて花火や十勝の魅力を伝えています。

## 十勝管内で主催する花火大会

※2025年度開催実績

- ・ふるさと銀河線りくべつ鉄道まつり花火大会 (7月中旬、陸別町)
- ・まくべつ夏フェスタ花火大会 (7月中旬、幕別町)
- ・十勝港海上花火大会 (8月上旬、広尾町)
- ・足寄ふるさと盆踊り両国花火大会 (8月中旬、足寄町)
- ・おびひろ氷まつり花火大会 (1月下旬~2月上旬、帯広市)



左から十勝港海上花火大会と、おびひろ氷まつりの打ち上げ花火

## 十勝の小豆や小麦をPR



### 自慢のあんぱんを販売

十勝が全国一の収量を誇る小豆や小麦を主原料とする「あんぱん」を通じて、十勝の農業・産業振興を後押ししようと、2021年に初めて開催しました。4回目となる25年は、十勝管内外の20店や地元の4高校が出店し、自慢のあんぱんを販売。会場はお目当ての一品を買い求める地元客や観光客でにぎわいました。



王道から十勝の野菜とコラボした変わり種など、個性豊かなあんぱんが勢ぞろい。各店に長蛇の列ができました

## 地域の和牛をブランドに



### 2027年には十勝で全国品評会

「十勝和牛」は十勝和牛振興協議会が認めた管内生産者が肥育・出荷する黒毛和種です。この知名度を高め、地域を代表する農畜産物にしようと2013年、PRプロジェクトの活動が始まりました(事務局は十勝毎日新聞社本社内)。同協議会と連携し、和牛を焼き肉で味わう「十勝和牛感謝祭」や、飲食店による消費拡大キャンペーンなどの運営に関わっています。

27年には、和牛の全国品評会「全国和牛能力共進会」が十勝で開かれる予定。道内初開催で、注目も一層高まりそうです。



10回目の十勝和牛感謝祭(25年9月)は、約2,000人の家族連れらが来場。炭火焼きの肉を味わいました

## 十勝の女性、もっと輝け!



### 会員制女性クラブ

十勝の女性を対象に2009年に発足しました。SALAはフランス語で「部屋」という意味。クラブを通じて地域のパワーの源である「女性」の人生をより豊かにするきっかけをつくろうと、俳優やモデル、アーティストなどの著名人を招いた会員限定の講演会を主軸に開催しています。このほか、ミニ講座や見学ツアーなども実施しています。



25年度1回目の講演会で講師を務めたフリーアナウンサーの武内陶子さん。楽しく生きるコツなどを教えてくださいました

#### 最近の主な講師

2025年度：武内陶子さん、IKKOさん、浜内千波さん  
 2024年度：賀来千香子さん、東儀秀樹さん、友近さん  
 2023年度：中村正人(DREAMS COME TRUE)さん、山田邦子さん、アンミカさん、桜木紫乃さん



25年は春・秋に開催。来場者は開放的な空間でショッピングを楽しみました

## 十勝で美を追求



### 地域のアパレル店が集結

百貨店など帯広市内の大型店が相次いで閉店したことを受け、2024年にスタートした美容・健康の複合イベントです。ファッションへの機運を盛り上げようと、地元のアパレル店や古着店、美容品メーカーなどが集結。最新のアイテムなどを展示販売しました。十勝管内のアパレルショップを巡るデジタルスタンプラリーにも取り組んでいます。

### 主な主催事業 (2025年度)

- ・とかちレディースパークSALA
- ・中島みゆき展『時代』2025 めぐるめぐるよ時代は巡る
- ・「農業新技術」※書籍発行
- ・文部科学大臣杯あさ野球大会
- ・帯広街バル

- ・おびひろ動物園動物画写生コンクール
- ・まくべつ夏フェスタ花火大会
- ・りくべつ鉄道まつり花火大会
- ・十勝港海上花火大会
- ・勝毎花火大会
- ・足寄ふるさと盆踊り両国花火大会

- ・十勝小唄のど自慢大会
- ・TOKACHI COLLECTION(かちコレ)
- ・音更いちょうライトアップ&いちょうまつり
- ・あんぱん祭り
- ・おびひろ氷まつり花火大会
- ・NPO十勝文化会議事務局 運営

- ・十勝小唄振興保存会事務局 運営
- ・北の大地de大道芸実行委員会事務局 運営
- ・十勝和牛プロジェクト事務局 運営
- ・北海道宇宙サミット実行委員会事務局 運営
- ・北海道十勝牛乳普及事業事務局 運営
- ・このほか、各種文化事業、スポーツ事業

# 帯広シティーケーブル



〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2  
TEL 0155-23-1511 <https://www.octv.jp>  
代表取締役会長／林 浩史 代表取締役社長／伊東 肇

地元に着した話題が満載！  
地域の皆様に役立つ情報をお送りしています



帯広シティーケーブル  
放送部 武内奈々

MOVIE



## 十勝の話題と 通信サービスを提供

“世界で一番十勝を放送”しているテレビ局です。1985年の開局以来、地域密着でグルメやレジャー、学校行事、スポーツ大会など、十勝のことを幅広く取り上げてきました。また、インターネットやスマートフォンなど通信サービスを提供し、「地域の暮らしを豊かにする」お手伝いもしています。自治体や警察署と連携協定を結び、災害情報の発信や防犯への取り組みも進めています。2025年8月には開局40周年を迎え、同年10月には新たに音更町市街地全域がサービスエリアとなりました。

HP



# エフエムおびひろ



〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2  
TEL 0155-23-0778 <https://www.jaga.fm/>  
代表取締役会長／林 浩史 代表取締役社長／伊東 肇

ラジオ放送を中心に、  
十勝のイベントを盛り上げるなど、  
エンターテインメントな会社です



JAGA パーソナリティ  
Miho

MOVIE



## 高支持で地域に浸透 全国へ発信

1994年に開局したコミュニティー FM 局。十勝で支持率ナンバーワンを誇るラジオ局です。スマートフォンアプリを使ったネット放送、ポッドキャストでの配信のほか、YouTubeLIVEの動画配信などを活用。災害時の緊急放送やAIアナウンスによる地震速報、緊急気象情報の発信など防災面にも力を入れています。2024年12月に、開局30周年を迎えました。

HP



# かちまい印刷

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 TEL 0155-23-5538  
代表取締役社長／林 浩史

同じような紙面でも、  
インキのわずかな調整で  
命が吹き込まれるのが  
印刷の面白さです



かちまい印刷印刷発送部  
寺田 泰昌

MOVIE



## デジタル印刷 多様な受注に対応

タワー型高速輪転機と高い技術力を持ち、十勝毎日新聞本紙のみならず、読売新聞の印刷を受託。紙面品質審査で高い評価を得ています。新聞印刷のほかに、デジタル印刷の最新鋭機を導入し、リーフレットや小冊子など多様な印刷物を引き受けています。

# かちまいサービス

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2  
TEL 0155-24-2221 <https://kachimai-service.jp/>  
代表取締役社長／林 浩史

日々の配達を楽しみにしている  
読者からの感謝の言葉が  
励みになります



かちまいサービス  
センターゲート店 赤坂紗耶香

## 地域に寄り添う サービスを展開

新聞販売店の運営をはじめ、チラシの折り込みや、全戸配布「ぴぴっと便」でクライアントの販促活動をサポートしています。また、ポストに新聞が残っているなどの異常を確認した際、訪問や電話で安否確認を行う「ぴぴっと見守り隊」を実施。読者に近い立場だからこそ安心して任せられるサービスを展開しています。

HP



# 観光事業で地域振興

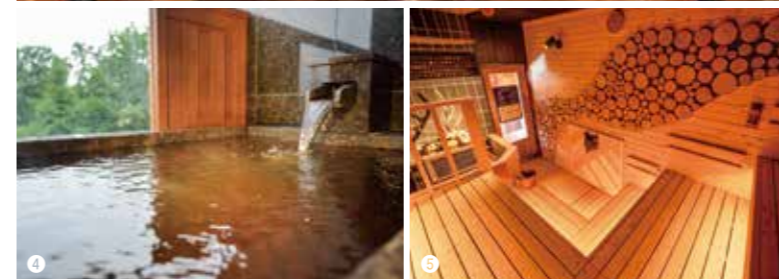
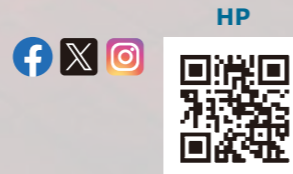
地域振興は「メディア」と「観光」から一。

創業者・林豊洲の想いを引継ぎ、多彩な観光事業に取り組んでいます。



森のスパリゾート  
北海道ホテル

〒080-8511 帯広市西7条南19丁目1 TEL 0155-21-0001  
代表取締役相談役／林 光繁  
代表取締役会長／林 浩史 取締役社長／林 克彦



①十勝・道産食材にこだわったコース料理  
②国立公園となった日高山脈を一望できる客室 ③ワインと料理のマリアージュを提案する6人のソムリエが常駐 ④モール温泉は大浴場や客室で堪能できます ⑤十勝産シラカバや十勝の麦飯（ばくはん）石を取り入れた個性的なサウナは、モール温泉の蒸気でロウリュ



愛きょうたっぷり♪  
木彫りのヒグマが  
お出迎え



## 「北海道」を代表するホテルに



十勝に「北海道」を代表するホテルをつくり、国内外に郷土の素晴らしさを伝えたい。そんな願いを込めて1994年、「北海道ホテル」は誕生しました。デザイン、設計のコンセプトは「北海道の風土」。地元産の建材を用いた館と素材にこだわった食、郷土への誇りを持った高いホスピタリティーで来館者を迎えています。2025年、グランドオープンから30年の節目を数えました。

## 北海道の風土を体現

外壁には、北海道の先住民族アイヌの伝統模様を描き、外壁・内装のレンガは十勝の粘土が素材です。美肌の湯・モール温泉付きの客室や、北海道の背骨・日高山脈を一望できる部屋も。館の随所に北海道への思いがあふれています。

## 地域の魅力を「食」で発信

和洋食や鉄板焼き、すし・蝦夷天ぷらといった4つの食事処で十勝・北海道の旬を取り入れた料理を提供。地域の魅力を食から伝えています。また、道内屈指の和・洋シェフとサービスストップのソムリエのもてなしも自慢です。1階のラウンジでは十勝の自家焙煎店と連携した質の高いコーヒーを楽しめます。

十勝川温泉 第一ホテル  
豊洲亭・豆陽亭

〒080-0263 音更町十勝川温泉南12丁目  
TEL 0155-46-2231  
代表取締役会長／林 浩史 代表取締役社長／杉本 浩章



十勝川や十勝中央大橋の景色を楽しめる足湯テラスは、日帰り入浴でも利用可

モール温泉と十勝の食で  
五感を満たす時間を

雄大な十勝川沿いにたたずむ、十勝リゾート「豆陽亭」と日本のお宿「豊洲亭」の二つのテイストを併せ持つ旅館です。1956年に前身の「十勝川温泉クラブ」として創業。時代の変化を敏感に読み取りながらリニューアルを重ね、地域の観光振興に貢献してきました。露天風呂から足湯まで多彩な湯船のモール温泉を堪能できるほか、十勝の良質な食材を使った料理で生産者の思いを紡いでいます。心がほぐれる滞在を叶えてくれます。



上：レストランや割烹など、十勝の旬を味わえる4つの食事処があります  
下：おもてなしを通じて十勝の魅力伝える各部門のスタッフ



十勝川温泉のはじまり

十勝川温泉は1934年、林豊洲が十勝川沿いで温度・湯量が十分な源泉を掘り当てました。その後、代議士の三井徳宝に名付けを依頼し、「十勝川温泉」と命名。泥炭を通して湧き出る「モールの湯」は、北海道遺産に選定されています。

十勝川温泉 三余庵

〒080-0263 音更町十勝川温泉南13丁目  
TEL 0155-32-6211



木と光のぬくもりに包まれるロビーラウンジ。窓の外に広がる四季折々に移ろう庭を眺めながら、くつろぎのときを過ごせます

十勝開拓者の教え  
「三余」を楽しむ

道東・十勝を活性化させたいという熱意から2004年にオープン。十勝の高級宿の先駆けて、十勝開拓の祖・依田勉三が師事した幕末の漢学者・土屋三余が宿名の由来です。「冬は歳の余り、夜は日の余り、雨は時の余り」(三余)の時間を大切に、くつろいで欲しいと命名しました。

瓦やレンガ、しっくいなど施設全体に自然素材を活用した館は、全11の客室にモール温泉を完備。メインダイニングでは北海道・十勝の食材を中心とした和食懐石で、地域の魅力を伝えています。



上：心も満たされる十勝の四季を映した料理  
下：2024年には「ELLE」ブランドのサロンがオープン



依田勉三と晩成社

静岡県松崎町生まれの依田勉三は1883(明治16)年、晩成社移民団27人を率いて帯広に渡り、未開の地を切り拓きました。晩成社は大樹町生花地区でバター製造を始め、「マルセイバター」として販売したことで知られています。

## 十勝千年の森

〒089-0356 清水町羽帯南10線  
TEL 0156-63-3000



十勝の大自然から着想した「メドウガーデン」。十勝の在来種や北米の植物が美しく共生しています

### 森造りの活動が原点 未来に繋ぐガーデン

十勝千年の森は、紙を多く消費する十勝毎日新聞社の森造りによる環境貢献活動「カーボン・オフセット(炭素の相殺)」が原点です。人と自然が触れ合える森として2008年に開設し、千年後の未来に引き継ぐ財産として、森を育て続けています。

東京ドーム86個分、面積約400haに及ぶ施設は日高山脈の麓(ふもと)に位置し、「北海道ガーデン」をテーマにした4つのエリアで構成されています。園内には十勝や国内外のアーティストが手掛けたアート作品も点在。北国の新たな庭園文化を世界に発信しています。

### キサラファーム

〒089-0356 清水町羽帯南10線 TEL 0156-63-3800  
代表取締役/斉藤 真



### ヤギ乳のチーズを 製造

ファーム内で放牧しているヤギの乳を使ったシェブルチーズを製造・販売しています。看板商品「十勝シェブル炭」は、2019年の「ALLJAPAN ナチュラルチーズコンテスト」のシェブル部門でトップの金賞。世界チーズ業界で最高峰の一つとなる「ワールドチーズアワード2021」でも銅賞を受賞しています。



チーズは季節ごとのヤギの乳の変化を見極め、味や形、色にもこだわっています

## 十勝トテッポ工房

〒080-0016 帯広市西6条南17丁目3-1  
TEL ショップ:0155-21-0101、カフェ:070-4177-2631  
代表取締役/林 浩史 取締役社長/林 克彦



ひと口サイズの〈ナチュラルチーズケーキ〉(写真左・手前中央)は、手土産にも。生菓子や焼き菓子、季節の素材をふんだんに使ったカフェ限定のパフェも人気です

### 菓子から伝える十勝の魅力 チーズケーキが看板商品

「とてっぽ」はかつて、帯広と十勝南部の町村を結んでいた私鉄「十勝鉄道」の愛称です。砂糖の原料ビートを運び、人々の足としても親しまれていました。店舗があるのはその鉄道跡地「とてっぽ通」沿い。かつて甘いビートと人々の笑顔を運んだように、菓子とともに十勝の魅力を運びたいと願い、2010年にオープンしました。

十勝産のチーズ数種類をブレンドした看板商品〈ナチュラルチーズケーキ〉をはじめ、地域の素材にこだわったケーキや焼き菓子を販売。併設のカフェでは、パフェなどが楽しめます。



上:カフェは線路を走る食堂車をイメージ。壁面には十勝の風景が描かれています  
下:十勝を中心とした約50種類のチーズも販売して酪農をPR



### 十勝千年の森と日高山脈

1,500~2,000m級の山々が連なる日高山脈・北側にある十勝千年の森は、山から多くの恵みを受けています。山頂から吹き下ろす強風「日高おろし」は豊かな植生を育みます。清らかな空気と水は、地下のマグマが固まった麦飯石からの贈り物です。

### 菓子王国・十勝

砂糖の原料となる「甜菜」(ビート)の作付け面積は、十勝が全国一。エリア内には製糖所や糖業の歴史を学べる資料館もあります。小麦や乳製品といった菓子の素材が自前でそろった環境から菓子店も多く、「菓子王国」と呼ばれています。

# 十勝毎日新聞社

# グループの歩み(1)

## 【豊洲時代～戦前】

- 1909(明治42)年
  - ・林茂(豊洲)が大分県から帯広に移住
- 1914(大正3)年
  - ・菅野光民が経営する「十勝日日新聞」に茂が入社
- 1918(大正7)年
  - ・光民がトムラウシで熊に襲われ死去
- 1919(大正8)年
  - ・茂が帯広新聞社を設立
  - ・旬刊「帯広新聞」を創刊
- 1920(大正9)年
  - ・十勝毎日新聞と改称、日刊に
  - ・本社印刷工場完成 4ページで発行
- 1923(大正12)年
  - ・創立5周年、本紙1000号
- 1925(大正14)年
  - ・第1回帯広野球大会
  - ・全十勝野球大会
- 1927(昭和2)年
  - ・勝毎が呼びかけ、狩勝峠が「新日本八景」に
- 1929(昭和4)年
  - ・第1回納涼花火大会(現勝毎花火大会)
- 1930(昭和5)年
  - ・「十勝小唄」を作詞発表
- 1934(昭和9)年
  - ・豊洲が運動した然別、糠平を含めて大雪山エリアが国立公園に
- 1935(昭和10)年
  - ・豊洲死去、林克己が2代目社長に就任
- 1936(昭和11)年
  - ・昭和天皇帯広行幸、天覧新聞に指定
- 1939(昭和14)年
  - ・戦時統制で旧北海タイムスと合併
- 1942(昭和17)年
  - ・道内11紙の統合による「北海道新聞」が創刊

## 【戦後】

- 1946(昭和21)年
  - ・復刊の前提として「週刊十勝毎日新聞」発行。タブロイド判
- 1947(昭和22)年
  - ・「週刊十勝毎日新聞」第40号で休刊
- 1952(昭和27)年
  - ・日刊「十勝毎日新聞」復刊
- 1956(昭和31)年
  - ・十勝川温泉第一ホテルの前身、大衆温泉「十勝川温泉クラブ」開業
- 1961(昭和36)年
  - ・「十勝川温泉クラブ」を第一ホテルと改称
  - ・輪転機印刷設備完成(マリノニー式色刷・自動折り畳み付き)
- 1962(昭和37)年
  - ・札幌支局設置
- 1964(昭和39)年
  - ・広尾支局を開設
- 1968(昭和43)年
  - ・創刊50年を迎え、新聞の題字書き換え
- 1969(昭和44)年
  - ・新社屋完成

十勝毎日新聞社は「郷土の発展とともに」の社是の下、地域に根ざした報道や事業、観光に力を入れてきました。その歩みを紹介します。

## 創業時から事業、観光に力

1919(大正8)年に初代社長の林豊洲(本名・茂)が帯広市西2南8に帯広新聞社を設立したのが始まりです。1920(大正9)年4月に現在の「十勝毎日新聞」に改称しました。当時から野球大会や現在の勝毎花火大会につながる事業を開催し、狩勝峠の「新日本八景」入りを呼び掛けるなど、観光にも力を入れてきました。



1931(昭和6)年に豊洲が建設した3階建ての社屋。第二次世界大戦中の新聞の統合で一時手放しましたが、1957(昭和32)年に買い戻し、1968(昭和43)年まで使われました



1919(大正8)年の創刊から使われ続けてきた鉛の活字。コンピューターによる印刷組版システムの導入により、次第に姿を消しました

## 歴代社長 ※[ ]内は社長就任年



初代 林 豊洲 [1919年9月～] 2代 林 克己 [1935年12月～] 3代 林 正巳 [1991年1月～] 4代 林 光繁 [1992年12月～] 5代 林 浩史 [2009年12月～]

## 紙面改革、事業を通して成長

戦中の新聞統合で休刊となりましたが、1946(昭和21)年に「週刊十勝毎日新聞」を発行、その後1952(昭和27)年に日刊紙として復刊を果たしました。当時は競合他紙も多い中、特集記事や年間キャンペーンなどの企画展開、文字の大型化など数々の紙面改革を通して部数と影響力を拡大。地方博の成功例と言われた「グリーンピア'92十勝博」や「みどりいむ'92」などの大型事業も手掛け、報道と事業を通して成長した時期でした。



1978(昭和53)年、故中川一郎農林水産大臣(左)と故太田寛一全農会長の対談。十勝の基幹産業をけん引するために進めた数々の農業関連記事の一環として、実現しました



地方博の成功例と言われた「グリーンピア'82十勝博」。帯広市開基100年を記念して開催されました



1985(昭和60)年、帯広シティーケーブルが開局。現在も地域情報を中心とした「コミチャン」や、高校野球中継などで親しまれています



1991(平成3)年、紙齢2万号に到達

- 1970(昭和45)年
  - ・新得支局開設
- 1972(昭和47)年
  - ・発行部数2万部を突破
- 1976(昭和51)年
  - ・「交通事故をなくそう」をテーマに第1回年間キャンペーンがスタート
  - ・輪転機(オフセット)導入に伴う新工場拡張増設
  - ・株式会社として登記
  - ・初代社長林豊洲作詞「十勝小唄」の保存会発足により、小唄発祥の地狩勝峠頂上の見晴らし台に碑を建立、除幕式挙行
- 1978(昭和53)年
  - ・「日本農業大いに語る中川一郎 農林水産大臣、太田寛一全農会長 ビッグ対談」企画掲載
- 1979(昭和54)年
  - ・創刊60周年記念「札幌コンサート」開催
- 1981(昭和56)年
  - ・株式会社帯広有線テレビ設立
- 1982(昭和57)年
  - ・ふじまるビル7階に「勝毎サロン」開設
  - ・かちまいホームセンターオープン
  - ・十勝文化会議設立
  - ・帯広市開基100年を記念して「グリーンピア'82十勝博」を開催
- 1983(昭和58)年
  - ・発行部数5万部達成
- 1984(昭和59)年
  - ・読みやすい「K」字を開発、使用開始
- 1985(昭和60)年
  - ・帯広有線テレビを株式会社帯広シティーケーブルに社名変更
  - ・帯広シティーケーブル(OCTV)都市型CATV全国トップで開局
- 1986(昭和61)年
  - ・発行部数6万部達成
- 1990(平成2)年
  - ・「十勝新聞教育研究会」発足、十勝のNIE運動が本格スタート
  - ・カーボン・オフセットの理念に基づき、清水町内に植林用地を確保。森林造成による環境改善活動に取り組む
- 1991(平成3)年
  - ・林正巳3代目社長に就任
  - ・紙齢2万号到達
  - ・「ホテル北海館」を買収、グループのシティーホテルとして経営
- 1992(平成4)年
  - ・グループ企業第一ホテルの新館「豊洲亭」グランドオープン
  - ・林光繁4代目社長就任
  - ・帯広市、帯広商工会議所と共催で「みどりいむ'92」(十勝・緑の地球博)開催
  - ・「新K字」の使用開始、1段12字79行制を採用(従来は13字87行)
- 1993(平成5)年
  - ・北米支局をアメリカ・オハイオ州クリーブランド市に開設。支局長に林浩史取締役が就任

# 十勝毎日新聞社

# グループの歩み(2)

- 1994(平成6)年
  - 清水町羽帯で十勝千年の森計画を開始
  - コミュニティー放送局「株式会社エフエムおびひろ」をグループ会社として設立
  - グループのホテル北海館が「北海道ホテル」に改称
  - 「エフエムおびひろ(JAGA)」開局(12月24日)
- 1995(平成7)年
  - 発行部数8万部達成
  - 全国に先駆けて記事の原則署名化を実施
  - 十勝毎日新聞社グループ地ビール会社「十勝ビール株式会社」を設立
  - 北海道ホテルがランドオープン
- 1996(平成8)年
  - 函館市の株式会社テーオー小笠原との共同出資で「株式会社函館新聞社」設立
  - 新聞の編集、制作を全画面にコンピュータ化する電子編集システム(新CTS)導入
- 1997(平成9)年
  - 函館新聞社が夕刊紙「函館新聞」発行(1月1日)
- 1998(平成10)年
  - 十勝初のフリーペーパー情報誌「Chai」創刊
  - タブロイド判20ページ、フルカラーで10万部を発行
- 1999(平成11)年
  - 東京機械製作所の超高速オフセット輪転印刷機「タワー型カラートップCT6000」を導入
  - 読売新聞の受託印刷開始
- 2000(平成12)年
  - 創刊80周年記念で公募した本社イメージキャラクターの愛称が「びびっと」に決定
  - 読売新聞社と災害時相互援助協定を締結
- 2001(平成13)年
  - 文字を大型化。1段11字組みに
  - 発行部数9万部達成
- 2002(平成14)年
  - 「とちか国際現代アート展・デメーテル」開催
- 2004(平成16)年
  - 十勝川温泉第一ホテルに「三余庵」オープン
- 2005(平成17)年
  - 欧州以外で初開催のナチュラルチーズ国際交流会議「コミテ・プレニエ・フロマージュ」開催
- 2006(平成18)年
  - 東京・銀座に「十勝屋」開業
  - 新印刷工場増設工事完了
- 2007(平成19)年
  - 十勝川温泉第一ホテルが創業50周年記念式典、本館を「豆陽亭」としてリニューアルオープン
  - 十勝川温泉第一ホテル別館の「三余庵」が小規模旅館としてJTBが北海道初の「サービス最優秀旅館ホテル」に選出
- 2008(平成20)年
  - 十勝千年の森がランドオープン
  - フリーペーパー情報誌「Chai」を月刊マガジン化
- 2009(平成21)年
  - 女性の会員制クラブ「SALA」スタート
  - 現社長 林浩史5代目社長就任
  - Chaiマガジン「まんぶく十勝2009～10」発行

## 多メディア展開とデジタルで地域情報を発信

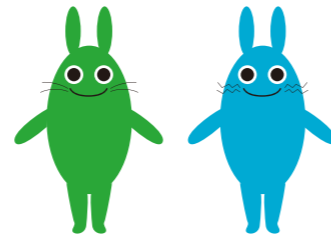
1985(昭和60)年に都市型ケーブルテレビ局の帯広シティーケーブル(OCTV)、94(平成6)年には地域コミュニティーFMの先駆けとしてエフエムおびひろ(JAGA)が開局しました。これにより、様々なチャンネルで地域の情報を伝える複合メディアとして成長すると共に、視聴者やリスナーの声を取り上げる双方向の発信に繋がっていきます。

さらに2010年、国内一般紙の中で先駆けて開設した電子版と連動することで、デジタルを活用したより多角的な情報発信を進めています。



1994(平成6)年に「エフエムおびひろ」を設立。「十勝発の情報を、十勝のラジオで流す」という熱意のもと、勝毎ビル4階にスタジオを設けました

創刊80周年記念の公募で決定した本社イメージキャラクター「びびっとかちまい」



2002(平成14)年に帯広競馬場を舞台に開催した「とちか国際現代アート展・デメーテル」。蔡國強やオノ・ヨーコら世界的な芸術家に参加しました



2012(平成24)年に英国ガーデンデザイナーズ協会(SGD)の大賞を受賞した十勝千年の森。写真は波打つ芝の丘が美しいアースガーデン



2016(平成28)年に開催した特別展「篠山紀信展 写真力」。2万5000人以上の来場者数を記録しました



創刊100年記念式典(北海道ホテル大雪の間)で式辞を述べる林社長



2020(令和2)年、21(令和3)年には音更町・十勝川温泉河川敷で、新型コロナウイルス収束を願うサプライズ花火を打ち上げました(写真は2020年)

2019(令和元)年6月25日に紙齢3万号に到達



- 2010(平成22)年
  - 十勝毎日新聞電子版サービス開始
  - 洋菓子屋「十勝トテポ工房」オープン
- 2012(平成24)年
  - 北海道ガーデンショー開催
  - ダイニングレストラン「十勝農園」オープン
  - 十勝千年の森のアース・ガーデン、メドウ・ガーデンがSGD大賞受賞
- 2013(平成25)年
  - 国内著名識者のコラム欄「耕土興論」を新設
- 2014(平成26)年
  - 札幌医科大学と包括連携協定を締結
- 2016(平成28)年
  - 家庭の作業代行サービス「びびっとお手伝いサービス」を開始
  - 帯広畜産大学と包括連携協定を締結
- 2017(平成29)年
  - ISTのロケット打ち上げでパブリック・ビューイング開催
  - ハウスクリーニング事業「かちまいライフサポート」開始
  - 十勝千年の森が土木学会景観・デザイン委員会主催の「土木学会デザイン賞2017」で最優秀賞
- 2018(平成30)年
  - 十勝千年の森が国際ランドスケープアーキテクト連盟(IFLA)が主催する2018年AAPME(アフリカ・アジア太平洋・中東地区大会)で最高位の「Outstanding Award」を受賞
  - かちまい印刷と北海道新聞社・子会社の道新総合印刷が災害協定締結
  - 十勝毎日新聞電子版で「ウォール・ストリートジャーナル(WSJ)」オンラインが購読できるサービス開始。本紙の国内・国際面にもWSJの記事欄を設置
  - 多メディア配信を可能とする新システム(CMS)導入
- 2019(令和元)年
  - 紙齢3万号到達
  - デジタルアート展「チームラボ☆学ぶ!未来の遊園地と、花と共に生きる動物達」を開催し、帯広美術館入場者最高記録・8万9065人が来場
  - 創刊100年記念式典を帯広、札幌、東京で開催
- 2020(令和2)年
  - 十勝毎日新聞電子版アプリをリニューアル
  - 北海道放送(HBC)と連携協定を締結
- 2021(令和3)年
  - 十勝ロイヤルマンガリツァ豚を提供する「29Curl(にくカール)」開業
  - 十勝トテポ工房第2工場稼働
- 2022(令和4)年
  - 十勝トテポ工房カフェオープン
  - 勝毎電子版の有料会員が1万人に
- 2023(令和5)年
  - 情報サイト「Chai Cross」開設
- 2024(令和6)年
  - 融合メディアを推進する「統合編集本部」を組織

# 十勝毎日新聞社 会社概要

<https://www.tokachi.co.jp>



本社屋

創立/1919年9月 資本金/3,000万円  
 売上高/33億4,000万円(2025年9月期実績)  
 発行部数/夕刊単独 65,077部(2025年10月 ABC協会報告部数)  
 代表取締役社長/林 浩史 顧問・主筆/林 光繁  
 取締役/林 克彦 取締役/伊東 肇 取締役/杉本 浩章  
 執行役員編集局長兼統合編集本部長/道下 恵次  
 執行役員営業局長兼札幌支社長/原口 暁史  
 執行役員販売局長兼かちまいサービス統括本部長/竹内 徹  
 執行役員総務局長兼グループ統括/郡山 順二  
 執行役員社長室長/牛島 里規  
 執行役員東京支社長/斉藤 雅彦  
 制作局長/千葉 秀昭  
 監査役/中井 宏、竹川 博之

【本社】

〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2番地 (代表) TEL 0155-22-2121 FAX 0155-25-2700 <https://www.tokachi.co.jp>

【編集局】	報道センター/デジタルセンター/編成センター	TEL 0155-22-2121	FAX 0155-25-2700
【営業局】	営業部/制作部/管理部/企画開発部 事業部	TEL 0155-23-2323	FAX 0155-24-9190
【販売局】	販売部/販売センター かちまいお客様センター	TEL 0155-24-2222	FAX 0155-21-7755
【制作局】	かちまい印刷内	TEL 0120-25-3999	(フリーダイヤル)
【総務局】	人事部/経理・財務部/管理部	TEL 0155-23-5538	
【社長室】	社長室/十勝千年の森観光部	TEL 0155-24-2299	FAX 0155-24-2600
		TEL 0155-22-2121	FAX 0155-21-2247

【札幌支社】	〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目34 フォージャース札幌ビル2階	TEL 011-261-2161	FAX 011-222-2224
【東京支社】	〒104-0061 東京都中央区銀座7丁目14-4 TAKI 銀座ビル2階	TEL 03-3544-1365	FAX 03-3544-1366
【音更支局】	〒080-0301 音更町木野大通西10丁目2-12	TEL 0155-67-6201	FAX 0155-67-6203
【本別支局】	〒089-3334 本別町北4丁目1-15	TEL 0156-22-2618	FAX 0156-22-4657
【広尾支局】	〒089-2623 広尾町並木通西1丁目1	TEL 01558-2-4111	FAX 01558-2-5895
【池田支局】	〒083-0090 池田町大通1丁目32	TEL 015-572-2367	FAX 015-572-3559
【新得支局】	〒081-0012 新得町2条南3丁目	TEL 0156-64-5524	FAX 0156-64-4110
【かちまいホームセンター事務局】	十勝毎日新聞社営業局内	TEL 0155-22-7555	FAX 0155-22-1077

【関連企業】 函館新聞社 〒041-8540 函館市港町1丁目17番8号 TEL 0138-43-2121 FAX 0138-43-3131

## 十勝毎日新聞社グループ企業 Tokachi Mainichi Newspaper, Inc. Group

[メディアグループ Media Group]

- 帯広シティーケーブル (OCTV)  
〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル4F TEL 0155-23-1511 FAX 0155-23-5507 <https://www.octv.jp>
- エフエムおびひろ (JAGA)  
〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル4F TEL 0155-23-0778 FAX 0155-23-7780 <https://www.jaga.fm>
- かちまいサービス  
〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル1F TEL 0155-24-2221 FAX 0155-21-4400 <https://kachimai-service.jp>
- かちまい印刷  
〒080-0801 帯広市東1条南8丁目2 勝毎ビル TEL 0155-23-5538 FAX 0155-23-5548

[観光グループ Tourism Group]

- 北海道ホテル  
〒080-8511 帯広市西7条南19丁目1 TEL 0155-21-0001 FAX 0155-21-0002 <https://www.hokkaidohotel.co.jp>
- 十勝川温泉 第一ホテル/豊洲亭・豆陽亭  
〒080-0263 音更町十勝川温泉南12丁目 TEL 0155-46-2231 FAX 0155-46-2238 <https://www.daiichihotel.com>
- 十勝川温泉 三余庵  
〒080-0263 音更町十勝川温泉南13丁目 TEL 0155-32-6211 FAX 0155-32-6212 <https://www.sanyoan.com>
- 十勝千年の森  
〒089-0356 清水町羽帯南10線 TEL 0156-63-3000 FAX 0156-63-3031 <https://www.tmf.jp>
- キサラファーム  
〒089-0356 清水町羽帯南10線 TEL 0156-63-3800 FAX 0156-63-3031 <http://www.tmf.jp>
- 十勝トテッポ工房  
〒080-0016 帯広市西6条南17丁目3-1 TEL 0155-21-0101 FAX 0155-24-0707 <https://www.totepo-factory.com>

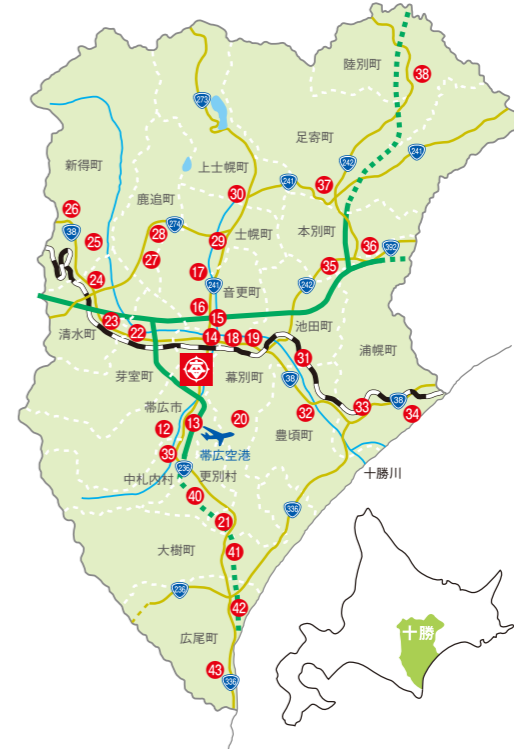
[十勝毎日新聞販売店一覧]

■ 帯広地区



- 【帯広市】
- ① 緑ヶ丘
  - ② 緑西
  - ③ センターゲート
  - ④ 東部南
  - ⑤ ノースゲート
  - ⑥ 米
  - ⑦ フォレスト
  - ⑧ 南町東
  - ⑨ 自由が丘
  - ⑩ 西帯広
  - ⑪ サウスゲート

■ 十勝管内



- 【帯広市】
- ⑫ 清川
- ⑬ 大正
- ⑭ 音更町
- ⑮ 木野東
- ⑯ 木野
- ⑰ 音更
- ⑱ 駒場
- 【幕別町】
- ⑲ 札内
- ⑳ 幕内
- ㉑ 糠内
- 【芽室町】
- ㉒ 芽室
- 【清水町】
- ㉓ 御影
- ㉔ 清水
- 【新得町】
- ㉕ 屈足
- ㉖ 新得
- 【鹿追町】
- ㉗ 鹿追
- ㉘ 瓜幕
- 【土幌町】
- ㉙ 土幌
- 【上士幌町】
- ㉚ 上士幌
- 【池田町】
- ㉛ 池田
- 【豊頃町】
- ㉜ 茂岩
- 【浦幌町】
- ㉝ 浦幌
- 【厚内町】
- ㉞ 厚内
- 【本別町】
- ㉟ 勇足
- 【本別町】
- ㊱ 本別
- 【足寄町】
- ㊲ 足寄
- 【陸別町】
- ㊳ 陸別
- 【中札内村】
- ㊴ 中札内
- 【更別村】
- ㊵ 更別
- 【大樹町】
- ㊶ 大樹
- 【広尾町】
- ㊷ 豊似
- ㊸ 広尾

十勝毎日新聞社採用HPもぜひご覧ください。

